

事務事業 No./名 称	□サービス部門 教総-25 教育支援事業 ■支 援 部 門					ザイムスコード及び個別事業名			
						1125・1126	教育指導支援事業		
主管課	教育指導課				関連課	1125・1126	特別支援教育推進事業		
分野名	学校教育								
目標 (目標値)	学校教育の充実と円滑な学校教育運営に努めます								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備 考					
	人 口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	78,131世帯	77,430世帯	・各年5月1日(学校基本調査)					
	児童生徒数	10,943人	10,744人						
運営資源 状 況	決算値	127,202千円	125,310千円						
	(国・県)	70千円	80千円						
	(負担金等)								
	(一般財源)	127,132千円	125,230千円						
	人員配置数	3.5人	3.5人						
	人 件 費	35,524千円	34,340千円						
	協 働 の パートナー	各学校・中体連・中文連・ 研究会部会他	各学校・中体連・中文連・ 研究会部会他						
事務事業 運営経費	総事業費	162,726千円	159,650千円						
	市民1人当 りの経費	921円	905円	※ベンチマーク 平成21年5月1日 学校基本調査より 分子:特学級設置校数 分母:学校数					
	対象者1人 当りの経費	14,870円	14,859円						
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	鎌倉市	逗子市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	20年度	5校	5校
	特別支援学級設置校数(小)	7/16	5/5	13/35	6/18	27/28	21年度	8校	8校
	特別支援学級設置校数(中)	4/9	3/3	9/19	3/13	15/15	22年度	8校	
							23年度	10校	
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・学級支援員の派遣時間の実績は、目標値内で終了することができたが、学校からの要望・要請は 今後も多くなることが予想される。スクールアシスタントの配置は、5校に5名であり、今後増員が必要 である。							
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・特別な支援を必要とする児童生徒の増加に対応するため、学級支援員の派遣時間数を6,100時間 から6,500時間に増加することができた。また、21年度は生活支援を行う学級介助員2名の増員、学習 支援を中心とするスクールアシスタントを5名から8名に増員し学校のニーズに対応した。 ・特別な支援を必要とする児童生徒に対し十分な支援が行えるよう、スクールアシスタントを対象に研 修会を実施した。							
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加の傾向にある。学級支援員の派遣時間の実績は、目 標値内で終了することができたが、学校からの要望・要請は今後も多くなることが予想される。生活支 援を行う学級介助員、学習支援を中心とするスクールアシスタントの増員が今後も必要である。							
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・各学校における児童生徒への支援体制がより有効に機能するように、学級支援員・学級介助員・ス クールアシスタント等の計画的な派遣・配置を行っていく。スクールアシスタントについては、小学校 全校への配置をめざしていく。							
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	多様化する児童生徒個々への支援、 学校の指導体制の更なる充実を進め る。			評価結果	改善の必要性	特別支援教育を教育の今日的課題 の重要項目の一つと捉え、今後も充 実させ、円滑な学校教育運営に努め たい。		
A	有				A	有			
課長名		教育指導課長 八神陽介			部名・部長名		教育総務部 宮田茂昭		